



旬の人

「かわいい」と「かっこいい」を併せ持つような「紙ロボット」が、手のひらの上で愛嬌を振りまく。大人たちに、ものづくりの大切さを再認識してもらいたい。そんな熱い思いを胸に企画・開発を担当した紙工

紙工作キットがグッドデザイン賞

作キット「パイプロイド」が、本年度のグッドデザイン賞に選ばれた。

パイプロイドは、鳥やカマキリを連想させるものなど五種類と特別仕様数が数種類あり、いずれも紙を丸めて加工したパイプが六本、袋の中に入っている。紙に幾何学模様や線などが印刷され、パイプ側面に穴が開いているものもある。工作で用意するのは、はさみだけ。切る、曲げる、差し込むというわずかな作業で完成する。

デザイナー 角田 崇さん

作って大切さ認識を

「手を動かして遊ぶアナログ的ゲームも作りたい」と語る角田さん



たなものを生み出すために何かを壊す、犠牲にするといいことかもしれない。普段は意識しないことに気付くきっかけづくりに気付けようと思う。以前、あるインテリアショップの経営者が「最近の若者は、商品を乱暴に扱うので困る。自分でものを作らないからどうか」と嘆いているのを聞き、共感した。「何かを作ったことがなければ、出来上がるまでどんな苦労があるかを想像できない。そんな世の中ではないはずがない」

ものがあふれ、選ぶだけで済まされる時代の流れを少しでも変える。そのため、大人の意識か

ら変えていく。紙工作には、切実なメッセージが込められている。

「作ったものを他人が乱暴に扱うと腹が立つように、作った人にか分からぬ、何か大切な感情がそこに生まれると信じている」。プロダクトデザイナーとして日々実感しているものづくりの楽しさを、これからも伝えていくつもりだ。

つのだ・たかし

1975年、前橋市生まれ。前橋高校を経て、京都市立芸術大美術学部デザイン科卒業。99年、ソフトウェア開発や玩具などの企画・製造を手掛ける「コト」(本社・京都市中京区)入社。京都市在住。